

## 第1回「明日の象徴」 医師部門

## 坪倉 正治 さん

(先端医療社会コミュニケーションシステム社会連携研究部門、医学系研究科博士課程2年、医師)

「明日の象徴」は医療、保健、ライフサイエンスの分野で活躍している35歳以下の期待の精鋭の活動を顕彰する賞で、坪倉さんはその活動を認められて第1回受賞者になりました。 (<http://www.ashitanoshochu.com/>)。

## 原発事故被災地での医療支援

坪倉さんは、東日本大震災後すぐに、福島第一原子力発電所事故の被災地でもある福島県に行き、医療支援を開始、必要な支援を行う中で、内部被曝の検査を一から立ち上げることに携わり、福島の人々の支援を続けています。放射性物質（放射性セシウム）による内部被曝に関して約1万人のデータをまとめられ、最近JAMA (The Journal of the American Medical Association, 2012 Tsubokura et.al.) に論文を発表されたところでもあります。継続的に社会貢献をされている坪倉さんだからこそその論文といえるでしょう。南相馬市（福島県）での医療活動と、医科学研究所先端医療社会コミュニケーションシステム社会連携研究部門の博士課程大学院生としての研究、また、求められての講演会など忙しい日々を送っているようです。受賞は、イノベティブな活動に対する評価と、若手に対する期待を込めたものでもあるようですので、お忙しいこととおと思いますが、受賞をきっかけに益々のご活躍を期待したいと思います。

## インタビュー

受賞おめでとうございます

○ 福島に支援に行かれた動機は何ですか？

坪倉：特に福島へ、と思っていた訳ではありません。一医療者として何か出来ることがあればと思っていたところに、南相馬に行かないかという話があり、もちろん行きます。と答えたのが最初です。

○ 最初に支援に入られたときはどんな様子でしたか？

坪倉：課題が山積みでした。自分が出来ることは限られているので、外来の手伝いなど出来ることを少しずつお手伝いしていました。皆優しく、すぐに受け入れてもらえて嬉しかったです。

○ 多数の方の内部被曝を調べられているようですが、最初からですか？

坪倉：血液内科が専門ですので、最初は普通の医療支援をしていましたが、“必要な支援”を行うなかで内部被曝の調査を行うようになりました。専門ではなかったのですが、全くもない状態から使いかたを学んで立ち上げを行い、内部被曝を調べるようになりました。

○ その立場から皆さんにメッセージはありますか？

坪倉：全体として、南相馬での内部被ばくはかなり少ないことが分かってきています。内部被ばくに限れば、1960年代の核実験の影響での日本全体に広がった汚染よりも、程度は軽いという結果です。チェルノブイリ事故後の1987年のヨーロッパの国々と比べても、汚染度は低いです。ただ、継続的な検査が必要ですし、今後も注意が必要なおことは変わりません。

○ 食品の内部被曝への影響を述べられているのを読みましたが？

坪倉：今現在の生活での内部被ばくの原因は、そのほとんどが食べ物であることが分かっています。チェルノブイリの事故後も長期的に食品汚染による内部被ばくが確認されています。今現在日本で流通している食べ物を摂取して、全体として内部被ばく量が増えているというデータはありませんが、継続的な検査が必要だと思っています。

○ 今後のご自身のプランは？

坪倉：福島での医療活動も大事ですし、大学院生としての研究も大事なので、これから考えて決めていこうと思います。

ありがとうございました。



坪倉さんはこんな人☆

インタビュー雑感

自然体：気さくに話して頂きました。

データ主義：話題が被曝等になると専門的なデータの話をしたそうでした。また機会がありましたら是非。

感謝の気持ち：話を伺う間に、分野の先生、論文を書く際にお世話になった先生等、多数の方に感謝の気持ちを述べられていました。